

課題名： ネットいじめ研究の新展開 ―「行動する傍観者」を生み出すプログラム―

氏名： 鈴木佳苗

機関名： 筑波大学

1. 研究の背景

ネットいじめについては、ネット上安易に誹謗・中傷の書き込みなどが行われ、被害が深刻であることが指摘されており、早急な対策が求められている。これまでのさまざまな国の対策の状況を概観すると、学校、教育委員会、NPO、政府によってネットいじめに対する対策や教材づくりが進められている。こうした対策や教材の特徴および教材利用の効果を検討することは、新しい教材やプログラムの開発にとって有用であると考えられるが、これまでに十分な検討は行われていない。

2. 研究の目標

本研究には、主に次の3つの目標がある。

- ・ ネットいじめの生起状況や対策、ネットいじめ予防や低減のための教材の網羅的な情報収集と内容分析を行う
- ・ 集団内で傍観者が行動を起こすことによって（「行動する傍観者」の行動によって）、ネットいじめの状況が変化する対人相互作用過程を体験することができるインタラクティブ・ソフトウェア（IS）を開発する
- ・ 新しく開発したISを組み込んだ教育プログラムの提案とその効果の検討を行う

3. 研究の特色

本研究には、主に次の2つの特色がある。

- ・ ネットいじめの状況を改善するための鍵となる存在として、集団内で「行動する傍観者」の存在に注目する
- ・ 学習者の動機づけを高めるISに注目し、「沈黙する傍観者」から「行動する傍観者」を生み出すことによって、ネットいじめの状況が改善することを経験するISを開発することによってネットいじめの低減を図る

4. 将来的に期待される効果や応用分野

本研究は、上記の新しいISや教育プログラムの開発に加えて、今後のネットいじめ予防や低減のための対策や研究を発展させるための基礎的な情報や視点（ネットいじめの生起状況、ネットいじめ対策・教材・教育プログラムに含める必要のある要素など）を提供できる。また、本研究の成果によって、人間性を育成するための教育系ISの市場の活性化も期待できる。

研究計画

2011.2

2014.3

研究成果の公開

ネットいじめの
事例分析

ネットいじめの
文献分析

ネットいじめ
予防・低減の
ための教材分析

ネットいじめ予防・
低減のための
教育プログラムの
分析

<ISの開発>

ISのシナリオ

ISの全体構成

<教育プログラムの開発>

教育プログラムの
構成

高等学校での
プログラムの評価

プログラムの
効果の検討

ISを組み込んだ
教育プログラムの開発